

後援会だより

「子どもの母校は我が母校」
「後援会だより」は後援会が保護者の皆さまと作るページです。

首都圏父母懇談会報告 市ヶ谷キャンパス



副実行委員長 小島克朗 (征吾/キャリアデザイン学部)

10月9日(日)、市ヶ谷キャンパス首都圏父母懇談会が開催されました。今年度は富士見ゲートの竣工、そして「尾木ママ」こと尾木直樹教授による講演会と話題が満載で、例年を上回る数の参加がありました。朝方から強い雨でしたが、幸いにも午前中で雨はやみ、参加した皆さまは恒例の学生によるキャンパスツアー、似顔絵サービスのほか、奇術愛好会によるマジックショーや能楽研究所の特別見学会などを楽しみました。

尾木教授の講演会は、事前申し込み数が薩埵ホール(870人)を大幅に超えてしまい、サテライト教室4室に動画を同時中継して開催しました。スポーツ選手を例に取り、「生き抜く力」とは、①失敗する力、②折れない心、③自己決定、④聴く力であると、ユーモアを交えて講演していただきました。

ランチ体験の会場では、富士見ゲート3階にある500人収容のカフェテリア「つどひ」と、ポアソナード・タワー地下1階の「フロレストガーデン」です。「つどひ」では、わずか1時間で売り切れたメニューもあつたようです。学部・学科別懇談会では、学部長や担当教員からも説明と質疑応答がありました。



尾木直樹教授による講演

小金井キャンパス



副実行委員長 亀井秀一 (悠貴/理工学部)

10月16日(日)、小金井キャンパスにて首都圏父母懇談会を開催しました。参加した保護者の皆さまは、キャンパスツアーとフリーツアーの二つのコースで、キャンパス内を見て回りました。今年のテーマは「見てみませんか、理系キャンパス小金井の技術力」。午前中は、研究室見学と模擬授業を開催し、小金井キャンパスでどのような教育・研究が実施されているかを体験しました。

研究室見学では、普段は関係者以外立ち入り禁止の場所にも入れてもらい、実験機器などの専門的な説明を聞きました。模擬授業では、熱心にメモを取りながら、受講している保護者の姿も見られました。

午後からの全体会では、法政大学の学校医である櫻小路岳文氏より、「大学生のストレスと心の成長」についての講演がありました。日頃、大学生が持つストレスについて、初めて知る方も多くいらしたようです。また、キャリアセンターの取り組みや、近年の就職状況の説明もありました。

その後は学科別説明会が行われ、今年度は保護者による座談会も開かれました。保護者の皆さんは、子どもの学校生活や成績のこと、悩んでいることなどの話を通じて、親睦を深めていました。

座談会の流れで、とても良い雰囲気の中で懇談会が行われました。先生方との会話も弾み、貴重な時間を過ごすことができました。



学科別説明会

多摩キャンパス



副実行委員長 藤田千明 (直也/経済学部)

10月15日(土)、澄み切った秋空の中、多摩キャンパスにて首都圏父母懇談会を開催しました。

当日は学生の「自主法政祭」も開催されており、参加した多数の保護者と併せて、活気にあふれていました。

中央エリアの芝生上のテントにはイベント用のヤギの姿もあつて、広大な自然に囲まれた多摩キャンパスならではの光景でした。

多摩キャンパス内は、学生スタッフが案内してくれた「ウォークツアー」と、無料循環バスを使って見学しました。ツアー中は、多摩キャンパスの学生ならではのエピソードも多く聞けました。

午後、



全体会(田中優子総長講演)

熱心に耳を傾けていました。全体会ではキャリアセンタールの方から、直近の就職状況の説明がありました。その後の学部別懇談会では、学部長や在学生から、学部での学習や大学生活について、分かりやすく説明していただきました。

田中総長は懇親会にも参加してください、大学関係者や学生スタッフと多くの保護者が和やかに歓談していました。

大学と後援会の活動にご理解をいただき、来年もまた多くの保護者に参加してもらえたらと思います。

「自由を生き抜く実践知」をテーマに田中優子総長による講演会が開催され、多数の保護者が



学食体験



受付

市ヶ谷キャンパス見学および野球応援報告 茨城県支部



茨城県支部長 小園井進 (航/経営学部)

10月8日(土)に、市ヶ谷キャンパス見学会(参加者22人)と野球応援(参加者19人)を実施しました。

当日は朝から小雨が降るあいにくの天気でしたが、祖父江一仁後援会会長のあいさつの後、小須田博司卒業生・後援会連携室部長の案内により、富士見ゲートとポアソナード・タワーを見学しました。

富士見ゲートは巨大なゲート状の外観が特徴的な建物で、法政にまた新たなシンボルが誕生したとうれしく感じました。大教室、オレンジホール、カフェテリア「つどひ」などを見学し、全ての施設がゆったりと明るい印象で、最新設備が備えられていることを知りまし

た。エスカレーター側には風をイメージした巨大壁面アートがかかっ

たり、屋上には庭園があつたりと、見どころ満載でした。ポアソナード・タワーでは、スカイホールや演習室などを見学しました。

野球場では、森田恵子副会長や平山智子総務をはじめ、本部の方々が出迎えてくれました。

雨の影響で開始が遅れた対慶應義塾大学戦ですが、応援団と一体になって応援しました。多少の疲労は伴うものの充実感があり、得点をした時に歌う校歌は格別です。試合は4点先行されましたが、ホームランなどで追いつけ、見事に逆転勝利を収めました。

キャンパス見学会にて、後援会小林章前会長に偶然お目にかかって握手したので、パワーをいただいたのかもしれない。小雨に降られはしましたが、「子どもの母校は我が母校」を実感できた一日でした。

知りました。エスカレーター側には風をイメージした巨大壁面アートがかかっ



富士見ゲートで集合写真



小林前会長と一緒に

「スポーツ応援&キャンパス見学 バスツアー」実施報告 静岡支部



静岡支部副支部長 三枝俊也（碧美／経済学部）

穏やかな秋の晴天に恵まれた10月16日（日）、静岡支部恒例のバスツアーを実施しました。今回は、アメリカンフットボール部の試合を観戦した後、小金井キャンパスを見学するツアーで、19人の支部会員が参加しました。

初めに、富士通スタジアム川崎で行われた「関東学生アメリカンフットボール1部リーグ」での上位8チーム内の対決、法政大学対日本体育大学（以下、日体大）の試合を観戦しました。スタジアムでは、後援会本部の小林章相談役、柳田明彦顧問、古家一郎副会長、平山智子総務が迎えてくださり、オレンジカラーが陣取る席に案内していただきました。



法政サイドのキックオフで開始された試合は、序盤に日体大の先制を許したものの、法政もすかさず追いつき、7対7で第1クォーターを終了。第2クォーターは双方譲らない展開の中、法政がフィールド

ゴールを決めて10対7と逆転したところで前半が終了しました。時間の都合により観戦はここまででしたが、選手たちの気迫あふれるプレーを間近に観て、とても楽しむことができました（このときの試合は法政が勝ちました！）。

次の目的地である小金井キャンパスでは、後援会本部の秋山太史副会長に迎えられ、まずは首都圏父母懇談会のプログラムである学生相談室学校医の櫻小路岳文氏による講演を拝聴しました。

続いて、事務部総務課仲田隆美主任による構内の案内。理系学部ならではの設備や最先端の研究環境の一部を見学し、その充実ぶりに感心させられました。

今回のツアーに参加された支部会員の皆さま、そしてご協力いただいた本部役員の方々に、心より感謝申し上げます。



東京六大学野球観戦記 東海支部



東海支部支部長 三浦紳太郎（浩太郎／法学部）

東海支部では、10月8日（土）に多摩キャンパス見学会を実施。その翌日の9日（日）、東海支部の33人で、東京六大学野球の対慶應義塾大学戦（第2回戦）を観戦してきました。

試合は4回表に1点を先制するも、その裏に逆転を許し、結局1対7の敗戦となりました。その結果、1勝1敗になり、今季初の勝ち点はお預けとなりました。

私の息子は4年生で野球部に在籍しているのですが、支部で企画される野球応援は毎年参加し、それ以外でも各シーズンに、何度も明治神宮野球場へ足を運んでいます。

東京六大学野球は高校野球ともプロ野球とも違う趣があります。球場の外から後援会の保護者たちを誘導し、試合が始まれば笑顔絶えず応援してくれるチアリーダーや部員。演奏とともにパフォーマンスを見せてくれる吹奏楽部員。そして、声を枯らしながら力強いエールを送るリーダー部員。応援団の全ての方々に、いつも頭が下

がる思いです。

そうした応援団の間近の応援席で肩を組み、校歌を歌う。そんなひとときは、自分が学生に戻ったような楽しい時間です。

また、全国から集まった約1200人の精鋭部員の中から背番号をもらい、熱い応援を受けて大都会の真ん中の球場でプレーできる選手たちは、見に行くたびに「本当に幸せ者だな」と思っています。

法政大学の優勝が決まった瞬間は、観客席からオレンジ色のテープを投げることが出来ます。残念ながら、私はこれまでその機会がありませんでしたが、近いうちに訪れることを期待しています。その日を楽しみに、これからも法政大学野球部を応援し続けていきたいと思えます。

まだの方は、ぜひ一度球場に行ってみて、東京六大学野球観戦を楽しんでみてください。



「箱根駅伝予選会」観戦記



鹿児島県支部会計 東福和彦（龍太郎／経済学部）

10月15日（土）に、第93回東京箱根間往復大学駅伝競走（以下、箱根駅伝）予選会が開催され、国営昭和記念公園で観戦しました。

前日のうちに東京に行き、早朝から会場に向くと、すでに大勢の人で賑わっていて、応援者の熱気がひしひしと伝わってきました。掲げられたオレンジ色ののぼり旗はひととき輝いていました。

天候は晴れ、走るには絶好の日和です。スタートと同時に、50校約6000人の出場選手が一斉に走り出した風景は、実に壮大でした。

集団の中で必死になって選手を探しましたが、あつという間に、目の前をオレンジ色のユニホームが駆け抜けて行きました。

余韻に浸る暇もなく、次の応援場所へと向かいます。大勢の人で渋滞し、思うように動けない中、焦る気持ちを抑えて移動しました。

「H」のマークの入ったオレンジ色のユニホームを見るたびに、思わず「法政

がんばれ！」と、我が子を応援するよ

うに、大声を張り上げていました。大きな歓声の中、結果発表が行われました。前半は11位だったと聞いていたので不安がよぎりましたが、4位で法政大学の名前が呼ばれると、喜びと同時に安堵感が広がりました。鹿児島支部にもすぐに連絡し、たくさんの喜びの声を聞きました。

陸上競技部駅伝チームの皆さん、本当におめでとうございます。「悔しさを忘れない」このスローガンを掲げ、厳しい夏の合宿を乗り越えてこられたことが、十分に感じ取れたレースでした。

来年の正月には、歴史ある箱根駅伝で、オレンジ色のユニホームが活躍し、目標である「シード権獲得」を実現することを心から期待しています。



箱根駅伝・オレンジエクспレスを沿道で応援しよう！ 《オール法政 箱根駅伝応援のご案内》

法政スポーツコミュニティー（HSC*）では、2017年1月2日（月）、3日（火）に開催される第93回東京箱根間往復大学駅伝競走（箱根駅伝）の応援を企画しています。皆さまと一緒に沿道をオレンジ色に染めて、選手たちに熱い声援を送りましょう。

応援場所は大手町から箱根までの各所に設定します。法政大学の「オレンジ色ののぼり旗」が目印です。詳しくは、法政大学後援会ウェブサイトをご覧ください。

<http://www.hosei-koenkai.org/>

■日時

2017年1月2日（月）8:00 大手町スタート（往路）
2017年1月3日（火）8:00 芦ノ湖スタート（復路）

■応援場所（予定）

大手町、蒲田、生麦、横浜駅、大磯、小田原、その他

皆さまの参加をお待ちしております。



*HSCとは：法政を応援する喜びを感じていただくためのコミュニティーで、法政大学後援会、法政大学校友会、法政大学教職員の有志で運営しています。